

# フィジー：未成熟島弧の金鉱化作用

浦辺 徹郎（鉱物資源部）・石原 舜三（元所員）  
Tetsuro URABE Shunso ISHIHARA



↑写真1 エンベラー鉱山のあるバツコウラ カルデラのカルデラ壁。直径約6 kmで鉱床はカルデラの西端に位置している。



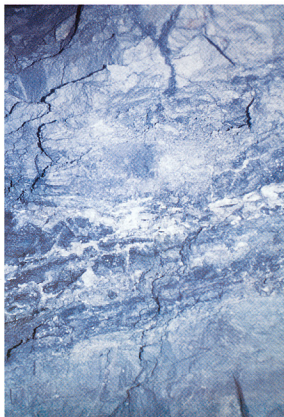
↑写真2 エンベラー鉱山口ノマ オープンビットで見られる岩脈（中央の立っている所）。岩脈の下盤側の変質帯（黒ずんでいる）に珪化と金の鉱化が見られる。



↑写真3 写真2の鉱石のクローズアップ。黒く見える所が高品位部で岩脈（この写真には写っていない）の貫入に伴う破砕帯中に柱化が起っている。赤は鉱石の場所を作業員に知らせるためのペンキで 我々にもどこが鉱石なのか分からない鉱床である。



↑写真4 エンペラー鉱山の坑内。エンペラーシャッター鉱体に見られる緩傾斜の粘土脈（人物の肩の所）、彼らはこれをフラットマークと呼んでおり 主要な金鉱石の1つである。



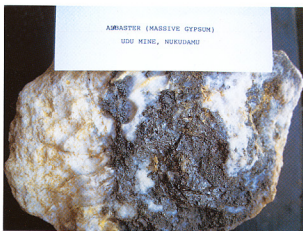
←写真5 630クロスカット鉱体の フラットマーク。これと写真2の岩脈の交差部が富鉱部になっており表紙の写真はそれを示す。



↑写真6 ナンディ北方ブダ探鉱地に見られる石英・明ばん石よりなるリッジ。半径約1.5kmのゆるやかな弧状を持って続いている。金の田坑はこのリッジの両側のすそ野に見られる。



↑写真7 ブンダ探鉱地の石英・明ばん石帯のクローズアップ。母岩は安山岩質角礫岩で この中の金品位は低い。



↑写真8-2

↓写真8-1



↓写真8-3



写真8

バヌア・レブ島ヌクンダム黒鉱鉱床(ウンドウ鉱山)の鉱石。左より柱鉱、石膏鉱、塊状黄鉄鉱、フィジー鉱山省の標本。